



# AUE News

2013年9月1日

第 67 号

編集・発行  
愛知教育大学広報チーム  
TEL 0566-26-2738  
FAX 0566-26-2500



## 目次

- 行事予定(9月1-15日)
- トピックス
  - ・震災ボランティア事前説明会
  - ・小中高英語教育講演会・シンポジウム
  - ・第85回天文台一般公開
  - ・第1回愛教送球祭
  - ・附属学校安全対策研修会
  - ・教員免許状更新講習
  - ・学生選書ツアー
  - ・庄内川艇庫を松田学長視察
  - ・管弦楽団第79回定期演奏会
  - ・理科観察実験授業力向上セミナー
  - ・溺れないための水泳をNHKが取材
  - ・IDE大学セミナー
  - ・第3回広報セミナー
  - ・オーストラリア教育実習参加学生を朝日新聞が取材
- お知らせ・報告・投稿
  - ・大学見学に富山県立大門高校生、私立藤ノ花女子高校生らが来学
  - ・催しもの案内

## 行事予定(9/1-15)

- 4日(水) 防災・防火委員会(10:00～ 第五会議室)  
教務企画委員会(13:30～ 第二会議室)  
学生支援委員会(13:30～ 第五会議室)
- 9日(月) 教員人事委員会(10:00～ 第五会議室)
- 10日(火) 役員会(13:00～ 学長室)
- 11日(水) 代議員会(13:30～ 第五会議室)  
教育研究評議会(代議員会終了後、第五会議室)
- 13日(金) 附属学校運営委員会(15:00～ 第五会議室)

## トピックス

### 震災ボランティア事前説明会(8/1、8)

本学では今年も夏期休暇中に東日本大震災被災地の宮城県へ学習支援の学生ボランティアを2期にわたって派遣。ボランティア派遣を前に参加学生への事前説明会が8月1日(木)、8日(木)、それぞれ第三会議室で行われました。

1日は第3期(8月4日～10日)、大崎市内の中学校での自学自習支援に当たる学生7人が出席。



松田正久学長が、「震災から2年以上経りましたが、その復興ぶりをきちんと見ること。子どもたちは明るく振る舞っているけれど、その内面に添うようにしっかりやってください。現場では無理せず、事故などないように気を付けてください」と激励しました。続いて、学生が自己紹介とボランティア参加の動機などを述べ、2回目の参加となる学生は「前回は被災直後で大きな被害を受けた惨状が至るところ

に見られ衝撃を受けましたが、現地がどう変わっているか見てきたい」と、初めて参加する学生も「これまで実習など都合がきませんでした、ようやく参加できます。教員になった時、自分の目で見たことを子どもたちに語りたい」「子どもたちに、この夏は楽しかったと言ってもらえるように支援をしたい」などとそれぞれ抱負を語りました。

その後、学生支援課から往復のバスのチケットが渡され、現地での宿泊や食事、保険の説明など事務連絡が行われました。

8日は、第4期(8月18日～24日)、南三陸町立志津川中学校での自学学習支援に当たる8人が参加して、同様に説明会が行われました。

なお、ボランティアの活動報告は、追って本誌面でも紹介する予定です。



### 小中高英語教育講演会・シンポジウム(8/3)

8月3日(土)、本学にて、教育創造開発機構小中英語支援室主催の教員研修会が行われました。半日日程にもかかわらず、参加申し込み者約151人(内訳:小学校勤務19人、中学校勤務23人、高校勤務15人、大学生・院生88人、その他6人)と、たくさんの方々にご参加いただきました。



前半のワークショップは小学校向けと中・高等学校向けに分かれて行いました。小学校向けでは、一宮市立中島小学校の柴田泰子先生と一宮市立丹陽西小学校の坂東映子先生からゲーム「キーワードゲーム・聖徳太子ゲーム等」、教材「バナナじゃなくてbanana チャンツ」、絵本「Brown Bear, Brown Bear, What Do You See?」などの紹介がありました。中・高等学校向けでは、大同高等学校の伊藤佳貴先生

がワークショップ「授業を活性化させるための十カ条」をテーマに、日常の授業において何を意識して教えることが大切なのかを、活動を通して教えていただきました。

開会式で松田正久学長のあいさつの後、元東京学芸大学教授の金谷憲先生による講演「学校英語教育の今日的課題」が行われました。講演の中では、すぐに授業に取り入れて使える活動 LSD(ラストセン



テンス ディクテーション)やビデオ映像を使ったロールプレイングなどが紹介されました。また、生徒に定着させるためには、たくさん使わせること、意味を考えさせること、文字から目を離させることなどが大切という話には参加者もしきりにメモを取っていました。先生のユーモアあふれる話術と、思わず吹き出してしまうユニークな例文を含んだ教材に参加者は引き込まれ、あっという間の90分でした。



冬には12月21日(土)、22日(日)に英語教員研修会を予定しています。

(小中英語支援室 稲垣真由美)

### 第85回天文台一般公開(8/3)

「第85回一般公開 子どものための講座と観望会」が8月3日(土)午後6時から本学自然科学棟天文台等で開催され、39人の親子連れなどが参加しました。

午後6時からの天文ミニ講座のテーマは「太陽系の仲間たち・太陽系の彼方には何がある～『星空博士』をめざして3～」。

澤武文特任教授(理科教育)が、衛星の画像とパワージオブレンのソフトを交えて、太陽系、銀河系、宇宙の解説をしました。

午後7時からの観望会は「土星の輪を楽しもう!」と題して、40cm望遠鏡で土星を中心に観察。土星の環、環の隙間を見たとき、環の右下部分が土星の影のため、土星本体と切れているように

見えることなどを確認し、衛星のタイタン、ディオネなども観察。小型望遠鏡で土星を見た後、40cm望遠鏡をのぞいた参加者から、思わず「でかい！」と驚きの声が上がりました。

今回の観望会では、澤研究室の院生、学生9人が協力。宇宙のシミュレーション映像を使った上映会「3D宇宙の旅」では、解説を担当するなど参加者のサポートに当たりました。

### 第1回愛教送球祭(8/4)

中学生、高校生を対象にしたハンドボール指導交流会「第1回愛教送球祭」が8月4日(日)、本学第一体育館と野外ハンドボールコートで開催されました。

山下純平ゼミの学生を中心に企画・運営を行い、ハンドボール部員が指導に当たりました。

当日の参加者は、100人を超える大規模なものとなり、初心者にとって大切な技術的ポイントの指導を中



心にハンドボールの楽しさを味わえるように行いました。

とても暑い1日でしたが、中学生・高校生は最後まで元気よくハンドボールに取り組み、大学生にとっても非常に良い指導経験になりました。来年以降も継続的に開催したいと思っています。

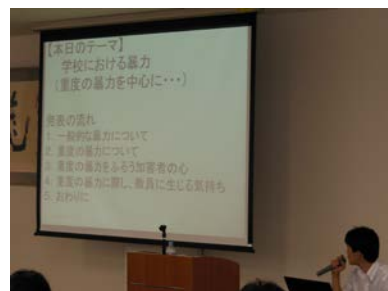
(保健体育講座 講師 山下純平)

### 附属学校安全対策研修会(8/7)

本年度の附属学校の安全対策に関する研修会が8月7日(水)午後1時から、本学本部棟3階第一会議室で開催され、7附属学校園の校長、教員、大学関係者等129人(前年度120人)が参加しました。

本研修会は、2001年6月に起きた大阪教育大学附属池田小学校での殺傷事件を契機に、本学附属学校における児童、生徒等の安全対策のために附属学校教員向けに開催しており、今回は、問題となっている「いじめ・体罰」について、教育指導の一助になればということと計画しました。

なお、これまでは、主に学外の方に講演をお願いしていましたが、今回、初めて学内から教育臨床学講座(大学院教育学研



究科)の原田宗忠講師、教職実践講座(大学院教育実践研究科)の萬屋育子特任教授に講演をお願いしました。

研修会に先立ち、松田正久学長があいさつ。引き続き宮川秀俊附属学校部長から2人の紹介があり、原田講師に「学校で暴力に直面した時に一教員の中で生じやすい気持ちに焦点をあてて」、萬屋育子特任教授は「子ども虐待における学校の役割」をテーマにそれぞれ話していただきました。

両氏の実績に基づく講演内容で、約1時間40分、参加者も熱心に聞き入り、講演後には参加者からの質問が多く出されました。

最後に、宮川附属学校部長が閉会のあいさつをして、講師及び参加者への謝辞とともに、附属学校教員に対して、「今後相談等があれば、お二人にお問い合わせいただければ」と話し、有意義な催しとなりました。

(附属学校課長 兵頭利和)



## 教員免許状更新講習(8/7-23)

本年度の教員免許状更新講習の夏期講習が8月7日(水)～23日(金)に本学第一、第二共通棟などで行われました。

2007年の教育職員免許法改正により、09年から教員免許更新制が導入され、これに伴って本学では、同講習を実施。今年、必修領域8講習、選択領域63講習を開講し、2013、14年度に35、45、55歳になる現職教員ら延べ3,103人が受講しました。

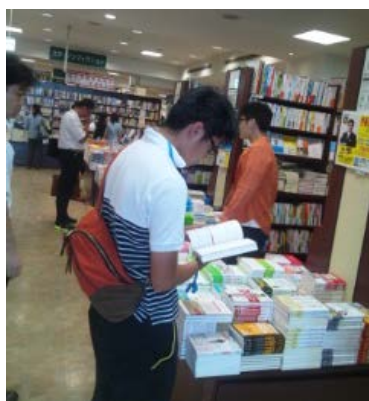
講座は午前9時10分～午後4時30分まで、1日6時間。延べ30時間の受講と修了試験が義務づけられており、受講者は連日の猛暑にもかかわらず、熱心に講義に耳を傾けたり、実習に取り組んでいました。受講生の中学校教員は「普段は忙しく業務に追われ、なかなか勉強する時間が持てない。今回の受講で新しい知識や技術を身につけて、現場で役立てたい」と話していました。



講習を担当する教育創造開発機構運営課によると、今年度は美術や音楽などの講座が早い段階で予約がいっぱいになり、「現場ですぐに応用できる内容の講座がここ数年人気」で、学校種を問わない臨床心理や発達障害などの講座も「キャンセル待ち」が出る状況。さらに、今回は教育系4大学(愛教大、北海道教育大、東京学芸大、大阪教育大)で取り組む「HATOプロジェクト」の一環で、受講者に対してアンケートを行い、「今後の免許状更新講習に現職教員の意向を反映していく」(同課)こととなります。

## 学生選書ツアー(8/9)

本学附属図書館では、昨年度に引き続き、8月9日(金)に「学生選書ツアー」を実施しました。これは、書店に向いて図書館に置きたい図書を直接選書する学生参加型の企画です。事前にポスターやツイッターなどで参加者募集を呼び掛け、7人の院生・学部学生が参加し、三省堂書店名古屋高島屋店で2時間程度かけて、ゆったりと選書を行いました。



予算は1人4万円程度で、参加した学生は教育関連や経済・歴史・政治、専攻している分野の専門書など、各々興味のある図書を選書し、「参加してよかった」という感想を聞くことができました。

選書後、本を選んだ理由を記入してもらい、後日それをPOPにして館内に「学生選書ツアー購入図書コーナー」を設置し、9月中旬頃には図書館利用者へ紹介・展示する予定です。

5月に行った館内で選書を行う「ブックフェア」や今回の「学生選書ツアー」など、学生の目線で選書を行うことで、図書館を身近に感じてもらい、より多く利用者に満足してもらえる図書館になるよう、これからも新しいサービスや活用のアイデアを出し合い、利用者サービスの向上に反映させていきたいと考えています。

(情報図書課 資料受入担当係長 杏名正樹)

## 庄内川艇庫を松田学長視察(8/9)

本学漕艇部は庄内川を拠点に活動、艇庫は名古屋市中川区大蟻螂町の住宅地にあります。松田正久学長は8月9日(金)、漕艇部の激励を兼ねて艇庫を視察しました。松田学長は現地で部員3人(主将の初等社会4年 高畑啓一さん、福主将の初等社会4年 鈴木達也さん、初等社会1年 小島佳浩さん)と懇談しました。



学長は艇庫の建物内に入り、高畑主将から1階倉庫にあるボートや器具について一つずつ丁寧に説明を受け、3人と話した後に2階へ上がり、部員達が休憩、宿泊している生活スペースを見学しました。

部員からボート乗船体験を勧められて学長は、即座に志願。早速準備の上、ボート1台を全員で倉庫から庄内川へ運搬し、部員より水上に浮かんだボートの乗り方や漕ぎ方の指導を受け、部員3人と順番に乗り込みました。ボ

ートは定員5人乗りの舵付クオドルブル（全長11.82m）で大変大きなもの。主将が音頭を取りながら、一斉に漕ぎ、ゆっくりと岸を離れました。学長は10m以上離れてから川に沿って100mを往復2回程部員と一緒に漕ぎました。少し暑い日差しの中、遠くから見ても学長は初めてとは思えないほどの部員との息の合った手さばきで、とても楽しそうでした。15分～20分で岸に戻った学長は、「気持ちよかった。本当に面白かった」と、初体験を楽しそうに振り返り、22日（木）～25日（日）に埼玉県戸田市で開催されるインカレに出場する部員を激励しました。（学生支援課 課外教育担当係 亀山重人）



### 管弦楽団第 79 回定期演奏会 (8/11)

本学管弦楽団の第 79 回定期演奏会が 8 月 11 日（日）、名古屋市東区の愛知県芸術劇場コンサートホールで開催されました。



演目は、シューベルト「交響曲第 7 番ロ短調 D. 759『未完成』」、ブラームス「交響曲第 4 番ホ短調 Op. 98」。客員指揮者には、東京音楽大学指揮科、ウイーン国立音楽大学を卒業し、ウイーン、ハンガリー、イタリアなどで活動を展開する濱津清仁氏を迎えて演奏を披露しました。

伸びやかに、水辺をわたる風のような涼やかな旋律から、一転ドラマチックで力強く、緊張感ある展開と、楽団員それぞれが半年間の練習の成果を發揮して、客席からは大きな拍手が沸きました。

最後は、おなじみのブラームス「ハンガリー舞曲第 5 番」をアンコール曲として演奏し、会場を沸かせました。

### 理科観察実験授業力向上セミナー(8/21)

「平成 25 年度東海地区理科観察実験授業力向上セミナー」が、8 月 21 日（水）、本学自然科学棟実験室で行われました。

同セミナーは、日本理科教育振興協会が主催し、本学などが共催。現職小学校教員を対象に、理科の指導に対する苦手意識を克服してもらおうと開かれているもので、東京、大阪でも開催。本学を会場にした東海地区では今年が 3 年目で、小学校教員 10 人が参加。地球（地学）、粒子



（化学）、エネルギー（物理）、生命（生物）の各分野で本学教員が指導。参加者は観察や実験を行いながら、授業で役立つアドバイスを受けました。

物理分野の内容は、「電気・電流の働き。利用完全マスター」。岩山勉教授の指導で、教材用の手回し発電機で発電し、豆電球や LED 電球を点灯させて確認。教材の使い方、活用の仕方、どう実験すると生徒の関心を引くかなど、細かなアドバイスに耳を傾けていました。

参加者で本学 OB の教員は、「昨年も参加して参考になりました。専門の先生から、教材や声



掛けの仕方を聞いて、こういうやり方もあるのかと思いました。有意義でした」。20代の教員は「経験が浅いので、子どもたちに楽しく教えるにはどうしたらいいか悩みます。参加して、教えやすい教材があることが分かり、子どもに教えるときに使いたい」と感想を話していました。

このセミナーの様子は、NHK名古屋放送局が取材し、同日午後6時台「ほっとイブニング」で放送されました。

### 溺れないための水泳をNHKが取材(8/22)

本学保健体育講座の合屋十四秋特別教授が研究する水中で溺れないための対処法を、NHK名古屋放送局の記者が8月22日(木)、本学のプールで取材しました。



夏休み期間中は水の事故が絶えないことから、溺れないために有効な方法を紹介したいと合屋特別教授に相談があり、Survival Floating(ラヌー式浮標)を実演。学生がモデルになり、顔面を水面に出して浮かび、足は膝から下を垂直に曲げた姿勢で、呼吸を確保したまま水に浮かぶことができる様子を収録。合屋教授はインタビューで、「欧米では、子どもたちにまず溺

れない方法を教えている。日本では泳ぐことが優先ですが、そういった指導も必要。教員を目指す学生には授業で指導しています」などと、命を守る方法を教えることの大切さを話しました。

この日の様子は、26日のNHK総合、午後6時台の「ほっとイブニング」で放送されました。



### IDE大学セミナー(8/22)

IDE大学協会東海支部平成25年度IDE大学セミナーが8月22日(木)に名古屋大学シンポジオンホールで開催され、東海・北陸地区国公立大学の教職員約200人が参加しました。



セミナーでは、「大学若手職員の育成を考える」をテーマとして、いまや人気職種である大学職員に難関を突破して採用された新規採用職員をはじめ若手職員の力量形成のあり方について、①大学運営において若手職員に求められる役割②若手職員が役割を担うために必要な環境・条件③大学組織として整備すべきもの等の問題に焦点を当て、講演及び話題

提供を行い、検討が加えられました。

講演では、京都外国語大学総合企画室参事の山崎その氏が「若手職員を悩ませる個と組織の関係」と題して、政策面からみた大学の事務組織、事務組織と職員の実態、事務職員と職員が抱える課題、協働に必要なことなど課題の全体像を解説しました。

また、本学の中原道文法人企画部長はじめ4人の国公立大学職員から体験や各大学の現状に基づく若手職員育成のための話題提供がありました。

中原部長は各種研修など本学の取り組みを紹介。前職の新聞記者時代、新人に「疑問力・取材力・表現力」が記者の3要素と教えてきたが、それぞれを現状への問題意識、情報収集力、企画・分析力と解釈すれば、大学職員に求められる資質も大きな違いはないの



では、とし、また「コモン・センス（常識）を磨いておくと、前例のない局面での判断に役立つと思う」などと話しました。

話題提供の後、参加者から質問のあった「（本学が新設した）職員表彰制度の具体的な内容は何か」「東海地区職員研修に公私立大学からの参加は可能か」「若手職員は多忙で使いづらいのはいつの時代からか」「若い世代は社会経験や体験から学ぶ機会が少ない。コモン・センスを身に付ける方法は何か」などについて応答があり、セミナーを終了しました。

（秘書広報課長 伊藤純一）

### 第3回広報セミナー(8/23)

教職員、学生を対象にした「広報セミナー」が、8月23日（金）午前、本部棟第一会議室で行われ、約50人が参加しました。

同セミナーは、秘書広報課が、普段の業務などで広報にかかわることで役に立ててもらえたらと企画し、今回が3回目。テーマを「報道カメラマンから写真の撮り方を学ぼう～いつもの写真がワンランクアップ！～」として、中日新聞編集局写真部の柳田大慈カメラマンを講師に招いて開催しました。



柳田カメラマンは、報道カメラマン歴30年のベテラン。国内外で報道写真を多数撮影し、現在は新人記者の研修も担当。セミナーでは、これまで撮影した写真を例に、「報道写真では情報のない部分を極力除いて無駄のないようにトリミングをしたり、ストロボを使うことで生き生きとした表情を強調します」などと解説。新人記者研修でのテキストを基に、初心者向けに写真撮影のコツを紹介しました。

また、本学職員が撮影した講演会などの写真を示して、「会場の全景、講師、舞台から観客の表情の3カットを撮影して、組写真に」などと、構図や感度、絞りの仕方など具体的にアドバイスしました。参加者からも、「カラー写真を白黒写真として使うとき写真を選ぶコツは？」「壇上の人物写真を撮る際の距離は？」など、多くの質問が出て、「コントラストを上げる」「人物に寄る」などのそれぞれの対処法も伝授しました。

後半は、報道仕様のデジタルカメラと400mmの望遠レンズで、参加者も撮影に挑戦。自然光での人物を撮ったり、連続撮影でシャッターを切ったりと、プロカメラマンの気分をちょっぴり体験。時間の都合で、持参したカメラでの撮影はできなかったものの、「写真を撮るコツが分かった」と好評でした。

秘書広報課では、今後も写真撮影や文章の書き方など、皆さんの要望に沿った内容でセミナーを実施する予定です。



（秘書広報課 渉外広報係長 小林則子）

### オーストラリア教育実習参加学生を朝日新聞が取材(8/27)

昨年度に続き、今夏もオーストラリアでの教育実習が8月から9月に2期にわたって実施され、第1期の実習を終えた学生の体験を、8月27日（火）、朝日新聞の記者が取材しました。



この実習は、小学校から高校までの英語教育を充実させる事業の一環として、オーストラリアの小中学校で教育実習を行うもので、費用は、国際的な人材育成を目指す文部科学省が負担。今年は、教員採用試験を受ける予定で、TOEIC700点以上などの条件で学内公募し、面接などで選ばれた1年から4年までの計16人が参加。派遣期間は、第1期は8

月2日(金)～24日(土)、第2期は8月24日～9月14日(土)の各3週間。メルボルン、ブリズベンなどでホームステイしながら、小学校などで日本語授業を担当したり、他の授業のアシスタントとして実習する。派遣先は、アンソニー・ライアン准教授(英語教育)がオーストラリアで教員をしていた人脈を生かして選定され、学生たちは、事前に数回の講習を受けて、日本文化を紹介するパワーポイントなどを作成して臨みました。



日本の九九はいいなと思った」などを挙げました。

また、海外での実習のシステムを、「経済的な理由で留学は難しいので、この制度はありがたい」「英語のコミュニケーション力を身に付けることができた」などとも話し、今回の実習を通じて、日本の小中学校での英語教育の在り方についても意見を述べ合っていました。

この取材による記事は、間もなく朝日新聞に掲載予定。学生による実習報告は冬に行われる小中高英語教育講演会などでも発表される予定です。(写真2、3枚目は、オーストラリア教育実習の様様)

この日は、第1期の実習を終えて帰国した学生7人が、記者からの質問に答えました。日本の学校との違いを聞かれると、「子どもの個性が重視されている」「生徒の自主性を重視して、一人ひとりのニーズに合った授業が行われている」「授業についていけない生徒のためのサポートルームがある」「教員が子どもに向き合う時間が多くある」「幼児からタブレット端末を使っている」などの点を指摘。逆に日本の学校の良さとして「算数の授業で、



## お知らせ・報告・投稿

### 大学見学に富山県立大門高校生、私立藤ノ花女子高校生らが来学(報告)

本学では、高校生や保護者を対象にした大学見学を実施していますが、8月は富山県立大門高校の2年生30人が7日(水)午前、豊橋市の私立藤ノ花女子高校の1、2年生35人が22日(木)午後を訪れました。

それぞれ、第五会議室を会場に、大学紹介DVDの上映の後、秘書広報課の職員が説明。高校生からの「どのぐらいの学生が教員になりますか」「選修と専攻の違いは」などの質問に入試課やキャリア支援課、教務課の職員が回答しました。授業やテスト、クラブ、アルバイトなど学生生活について説明すると、高校生たちは時折メモを取るなどして耳を傾けていました。

その後は、施設見学。猛暑の折、第一共通棟や福利施設、図書館など最小限のコースとなりましたが、キャンパスの雰囲気を実感したようでした。



## 催しもの案内

### ◆UNOセレクション Vol. 5

「和紙 g l o w あかり～和紙でつくったあかりの作品展～」

9月1日(日)～8日(日) 10:00～19:00 (最終日は～17:00)

参加無料、予約不要

刈谷駅前商店街 駅前ギャラリー「スペースA q u a」

出展者：金田早織(本学OB)

和紙を使ったあかり作品を紹介

問い合わせ：TEL 0566・21・1109



◆2013 年度防災・減災セミナー

9月17日(火) 13:00~15:00 入場無料、予約不要

愛知教育大学 第一共通棟 301 室

講師：張鋒氏(名古屋工業大学高度防災工学センター長)

演題：「防災・減災の観点から巨大地震に対し、いかに備えるか」

対象：本学学生、教職員、一般

問い合わせ：法人企画部総務課

Tel 0 5 6 6 ・ 2 6 ・ 2 1 1 3

E-mail:soumu@aecc.aichi-edu.ac.jp

◆愛知教育大学 教科教育学研究部門 講演会

9月18日(水) 10:00~12:00

愛知教育大学 大学会館 中会議室

講師：竹原裕名誉教授

演題：「デザイン思考による総合的学習を考える」

問い合わせ：教育創造開発機構運営課 大久保修司さん

Tel 0 5 6 6 ・ 2 6 ・ 2 3 1 6

編集後記



今年の猛暑は格別でしたが、気付いたら9月。通勤途中の田んぼでは、すでに稲刈りが行われ、学内でもススキの穂やドングリの実を目にするようになって、季節は着実に秋に。大学ホームページのトップ写真も、真夏のプールの風景から、馬場に差し替え完了。(皆さん、学内に馬場があることをご存じでしょうか?)。空の青さ、雲のたなびきからも、早秋を感じてください。(本学HP URL: <http://www.aichi-edu.ac.jp/>) (K)

投稿のお願い

学内外の出来事(教育・研究・地域連携・国際交流・学内事業など)に関するニュースの提供をお待ちしております。

メール:[kouhou@m.aeccc.aichi-edu.ac.jp](mailto:kouhou@m.aeccc.aichi-edu.ac.jp) 編集責任者:総務担当理事 折出 健二